

霊璽 「れいじ」

霊璽は、故人の御霊を宿すもので、仏教の位牌に当たります。その形には種類がありますが、一般には位牌の形に似た白木のものが多く、名称も木主、霊主などという呼び方をされることもあります。

霊璽の表面には故人の霊号、裏面には帰幽の年月日、享年などが墨書されます。霊号は故人の名前の下に「〓命」「〓之霊」「〓霊位」などがつけられ、特に男性なら「〓大人之命」「〓彦之命」、女性なら「〓刀自之命」「〓姫之命」などと加えることもあります。

神葬祭の通夜祭に続く遷霊祭で、故人の御霊をこの霊璽に遷し留めます。そして霊璽はしばらく仮の御霊舎に安置され、五十日祭や百日祭の後、故人の霊を祖先の御霊と同様におまつりするために仮御霊舎から御霊舎に遷し、永く家の守護神としてお祀りします。

御霊舎 「みたまや」

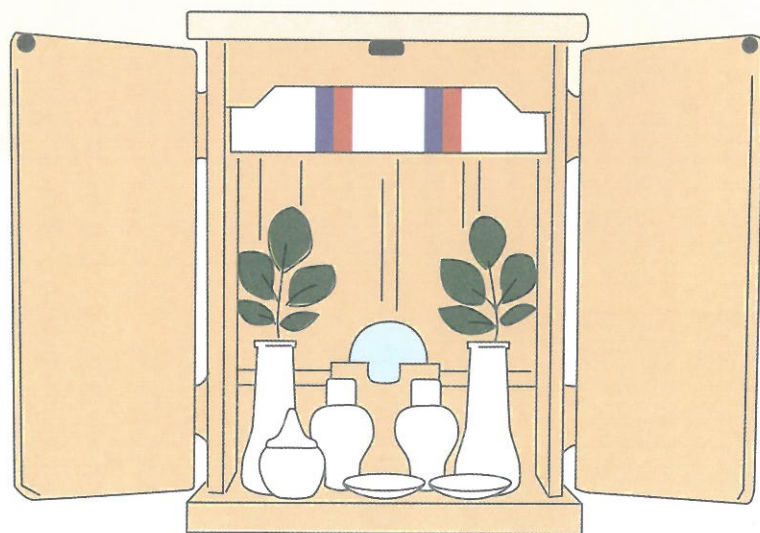
先祖代々のおまつりは、神棚とは別に御霊舎をしつらえて行います。御霊舎は仏教という仏壇と同じようなもので、先祖代々の御霊を遷した霊璽を納めまつります。一般的に御霊舎は神棚と同じ場所にせず、神棚より少し下げて設けます。

御霊舎をおまつりする場合には近くの氏神さまの神職に相談してお祓いしましょう。

御霊舎の中には父母、祖父母、曾祖父母（あるいは高祖父母）などの霊璽を並べておまつりします。

又、古くなった順で御櫛（霊璽を入れる箱）に納め、年祭の都度取り出すようにします。

御霊舎が狭い場合には御櫛の内に重ねて入れ、該当のおまつりの日にはその方の霊璽を取り出して前に立てます。



霊璽は御霊舎の中扉の中に安置します。
そして中扉は閉めて、その前に神鏡を置きます。

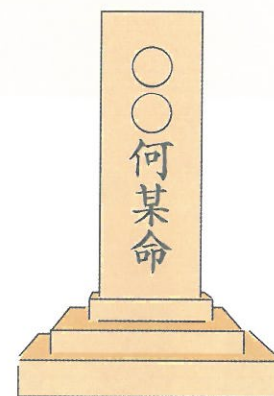


霊璽は神聖な御霊の依り代のため、
霊璽には覆いを被せることもあります。



裏

帰幽の年月日と
年齢が記される。



表

姓名に「〓命」や「〓之霊」
などをつけた霊号が記される。